FAX：050-3156-7513 番号のお間違えのないようにお願いします

特定非営利活動法人 大阪を元気にする会 行（本紙を複写コピーしてお送りください）

「大阪の医療提供体制改革プラン」シンポジウム 参加申込書

開催日： 2013年6月20日（木）14:00～17:00（受付開始 ： 13:00より）
申込締切日： 6月13日（木）迄にご返信ください（定員720名になり次第〆切）

個人情報の「利用目的について」はこの枠内をご参照ください。

ご記入いただきました、お名前、ご住所、お電話番号等の個人情報は、参加人数の確認、ご意見・ご質問への回答、当会セミナー等のご案内の為以外には利用いたしません。
お電話でのお問い合わせは、06-7668-8141個人情報担当（平日10時～17時）まで お問い合わせください。

法人・団体名	フリガナ	
ご住所	フリガナ	
〒		
TEL.	FAX.	

参加者ご氏名	所属・役職	メールアドレス
フリガナ		
フリガナ		
フリガナ		
フリガナ		
フリガナ		

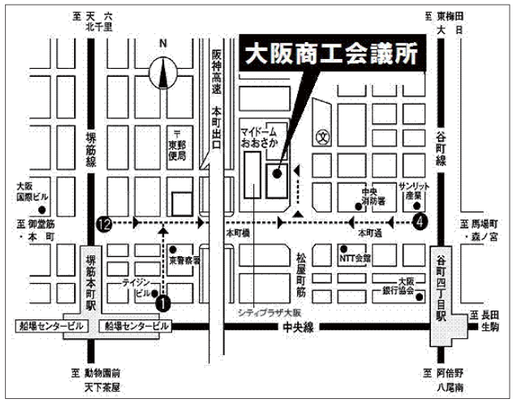
○ 6名以上でお申込みの場合は、本状をコピーしてご活用ください。

● 会場のご案内・交通アクセス ●

大阪商工会議所　国際会議ホール（７階）
〒540-0029 大阪市中央区本町橋２-８ TEL. 06-6944-6268

● **交通案内** 地下鉄堺筋線、堺筋本町駅より徒歩7分
地下鉄谷町線、谷町四丁目駅より徒歩7分

● **駐 車 場** 収容台数に限りがございます。（有料）
ご来場の際は公共交通機関をご利用願います。



● お問合せ先 ●

特定非営利活動法人大阪を元気にする会 事務局（担当：末松）
〒546-0013　大阪市東住吉区湯里2-2-8
TEL. 06（7668）8141　FAX. 050（3156）7513
E-mail：info@genki-osaka.com
URL：http://www.genki-osaka.com/

VEGETABLE OIL INK

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC™ C XXXXXX www.fsc.org

「大商ニュース」同梱サービス利用

オール大阪で

未来の医療をつくる

「大阪の医療提供体制改革プラン」シンポジウム

日時 2013. 6. 20 thu
14:00－17:00（受付 13:00～）

会場 大阪商工会議所
国際会議ホール（7階）

参加 無料 申込必要
（先着 720 名で〆切）

主催：大阪の未来の医療をつくる会・NPO法人大阪を元気にする会
後援：大阪商工会議所・関西経済同友会・一般社団法人生産技術振興協会・公益社団法人日本WHO協会（申請中）

大阪の医療提供体制は全国的に見れば恵まれている方ですが、その割には十分な結果が得られていないと言わざるを得ません。例えば、がんで亡くなられる方の割合を調べると、大阪府は全国最下位あるいはそれに近い状態が続いており、ほかの多くの生活習慣病・感染症でも非常に悪い結果が報告されています。そのため、大阪府民の寿命は他府県と比べると極めて悪い結果となっています。また、大阪府民はどこに住んでいても病気になったら同じような医療を受ける権利があるはずですが、大阪には地域格差があり、様々な改革すべき課題を抱えています。さらには、小児（救急・子供のこころの問題）、高齢者、貧困層、外国人等の「医療弱者」「医療難民」問題とも呼べる新たな課題に地域全体で取り組むことが、強く社会全体から求められています。
一方で、政府は「日本再生戦略」4大プロジェクトの1つとして、「ライフー世界最高水準の医療・福祉の実現」を掲げています。大阪には、創薬、医療機器を初めとして、治療、介護等の医療産業の強い基盤があり、国が進めようとしている戦略に足並みを揃える絶好のチャンスが訪れています。
このたび、このような地域医療をとりまく状況を憂慮する医療関係者有志が、「大阪の未来の医療をつくる会」を結成し、諸問題を解決すべく、大阪の医療提供体制の改革に立ち上がりました。
大阪の医療には古い時代のシステムが残っており、医療機関の連携の不足、全体としてのマネージメントの不十分さがあり、それがからみあって効率のよい運用がなされていない結果になっています。「大阪の未来の医療をつくる会」は、従来の枠組みを脇に置いて、あるべき姿から地域医療をとらえ直しました。そしてこのたび、中長期的な視野に立って、抜本的で効果的・総合的な具体策がまとまりました。当シンポジウムでは、その内容を皆様に紹介させていただき、多くの方々のご意見を聴取することにより、大阪のこれからの医療を一緒につくっていく機会にしたいと思っています。

オール大阪で 未来の医療をつくる 「大阪の医療提供体制改革プラン」シンポジウム

14:00 開会挨拶

松浦成昭 大阪の未来の医療をつくる会　代表

<プロフィール>　1976年 大阪大学医学部医学科卒業、1996年 同大学医学部保健学科・教授、2003年 同大学大学院 医学系研究科・教、2011年から全国がんプロ協議会会長
（専門分野）外科学、病理学、医療経済学

14:05 来賓挨拶

松井一郎氏

14:15 基調講演

遠山正彌 大阪府立病院機構　理事長

「大阪の医療提供体制改革プランについて」

<プロフィール>　1972年 大阪大学医学部医学科卒業、1986年 同医学部教授、2005年 同大学大学院 医学系研究科長および医学部長、2009年 大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科・研究科長（専任）2012年 地方独立行政法人大阪府立病院機構理事長
（専門分野）神経化学

（講演内容）大阪府の医療資源は、地域医療のパフォーマンス向上に十分発揮されていない。医師の地域偏在も深刻で、公平・適正な医療提供体制が構築されていない。子供のセーフティネット・安全安心な受入れ態勢が整備されていない。老人医療費は全国3位だが、平均余命は短く、在宅医療の連携体制の整備も問われている。府市が一体となり、地域格差のない、高レベルの医療が行われ、安心して生活できる地域になるとともに、先端医療の世界的拠点となり、広範な医療産業の交流による活性化を通じて大阪の再生が図られることを期待する

14:45 特別講演 I

澤　芳樹 大阪大学大学院医学系研究科　教授

「大阪の先端医療について」

<プロフィール>　1980年、大阪大学医学部卒業。医学博士（大阪大学）。1989年、フンボルト財団奨学生としてドイツMax-Planck研究所心臓生理学部門、心臓外科部門に留学。その後、大阪大学医学部第一外科講師、助教授等を経て現職。2010年より、大阪府医師会 副会長。大阪大学臨床医工学融合研究教育センター センター長。2012年、大阪大学医学部附属病院未来医療開発部 部長、2013、附属病院ハートセンター センター長、大阪大学大学院医学系研究科 副研究科長に就任、現在に至る。
（専門分野）心臓血管外科学、再生医療

（講演内容）大阪は古くより医療の先進地域であり、その伝統を引き継いで、現在も先端医療が実践されていますが、治療の難しい病気はたくさんあります。それらに対して、産官学が一体となって未来の医療を開発することが必要で、そのことが大阪の発展につながると考えられ、その観点から、現状と将来像をお話ししたいと思います。

15:10 特別講演 II

塩崎　均 近畿大学　学長　医学博士

「地域連携について」

<プロフィール>　1970年 大阪大学医学部医学科卒業、2001年 近畿大学教授、医学部附属病院 第一外科部長兼務、2004年 医学部附属病院長、2008年 医学部長、2012年 近畿大学学長
（専門分野）消化器外科学

（講演内容）各種の特徴ある病院が複数存在する大阪府で、患者さんに最も適切な医療を受けていただくためには、地域連携、病診・病病連携を上手く運用することが不可欠です。限られた医療資源を有効に機能させるための取り組みについて述べてみたい。

15:50 パネルディスカッション

パネラー：**遠山正彌、澤　芳樹、塩崎　均**、コーディネーター：**松浦成昭**

「大阪の医療提供体制改革プラン」について

16:55 閉会挨拶

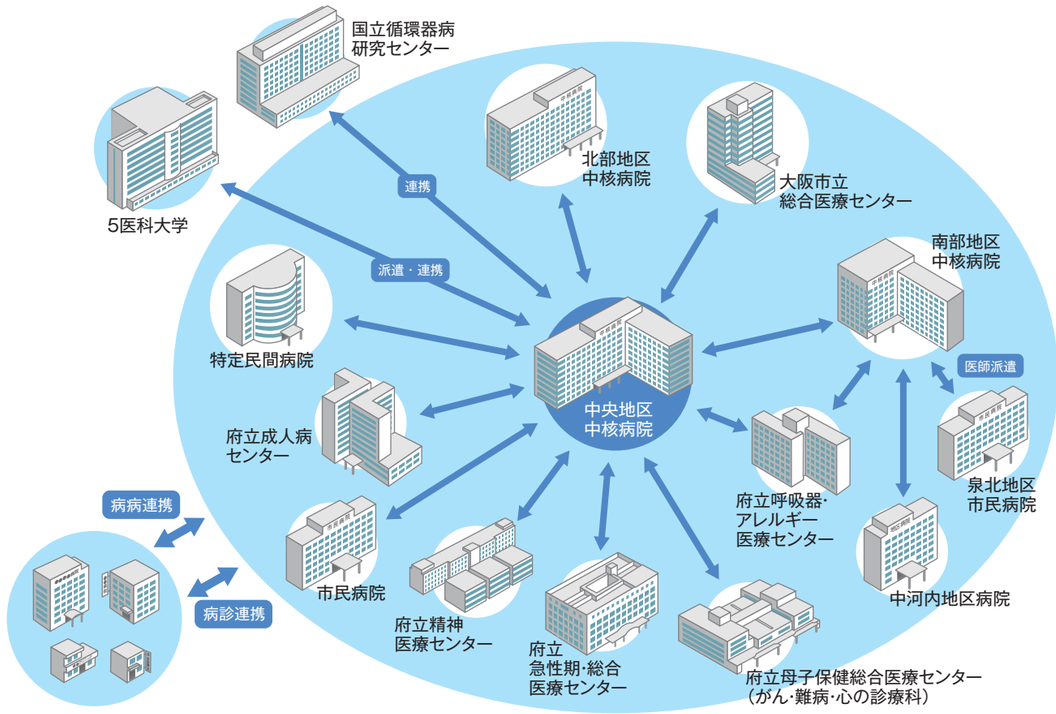
更家悠介 NPO法人大阪を元気にする会　　理事長

<プロフィール>　1951年 三重県熊野市生まれ、サラヤ株式会社 社長

「大阪の未来の医療をつくる会」提言の基本的な考え方

- 従来の医療圏という枠組みから脱却し、効率重視の医療のあり方を目指します。
- どこに住んでいても高いレベルの医療が受けられる医療体制を構築します。
- オール大阪で医療を推進し、救急医療、高齢者医療、がん・循環器医療、小児医療、周産期医療など、それぞれのニーズに合わせて大阪府・市一体で高いレベルの医療を提供します。
- 医療情報・患者情報のクラウド化・共有化を図り、患者がいつでも迅速かつ適切な治療を効果的に受けられるようにします。
- 大阪の医療のポテンシャルの高さを活用し、医療特区を設け、医療集積ゾーンを創設することにより、医療産業の育成を図り、先端医療の世界的拠点を目指します。

「大阪病院機構」組織体によるネットワーク



改革プランの画期的ポイント（ビフォー・アフター）例

大阪の医療には、非効率、不十分な点が多々あり、それぞれの力を活かしきれていません。
すべての大阪府民が病気になったときは適切な医療サービスを受けることができるとともに、産業育成、経済活性化にもつながる医療体制を一緒に考えましょう。

ビフォー	アフター
大阪府域の各医療機関が、それぞれ独自に努力してきた。府民本位の観点からすれば連携・分業は弱かった。	オール大阪の発想を採り入れて、府民の利益にかなうよう、「病病連携」「病診連携」など、各医療機関が連携と分業を徹底的に進める。
大阪の医療提供体制には、PDCA（プラン・ドゥー・チェック・アクション）サイクルが確立されていなかった。	実効性ある地域医療計画を策定し、病院～診療所の緊密な連携を進め、実行体制・フォローアップ体制を確立する。
医療の提供において、地域における中枢機能・結節点を担う存在がなかった。	①**「大阪病院機構」**を設立し、経営管理や地域連携を強化する。②北部・中央・南部に、それぞれ**「中核病院」**を設置し、地域医療計画を実現するための**中枢機能**を持たせる。
医療従事者の流動性が下がり、全体として個々の能力を活かしきれていない状況が出てきた。	**「大阪病院機構」**において医療従事者のローテーションを実施し、「適材適所」で勤務できるようにする。
医療従事者の一体的・継続的な育成システムが欠如していた。	医療従事者の統一した人材育成プログラムを実施する。
先端医療を担える医療機関が限定されていた。	大学病院と**「中核病院」**が連携して先端医療を担い、裾野を拡げる。
大阪には創薬、医療機器など医療産業の強い基盤があるにもかかわらず、治療が難しい病気に対して、新しい先端医療を開発する体制が弱かった。	大阪市内域に高度医療を実践できる中核病院を設立し、医療特区を活用して、産業界と連携し、新しい医療の開発により医療産業都市をめざす。雇用機会の増加、地域経済の活性化にもつながる。